Takaki No.3434 Oct. 1936); Prov. Higo, Ogunimachi, (Coll. H. Takahashi in Herb. N. Takaki No. 2069, July 1935). Hondo: Prov. Mikawa, Mt. Miyajisan (Coll. N. Takaki in Herb. N. Takaki, No. 3632, May 1947); Prov. Mikawa, Miyazaki-mura (Coll. N. Takaki in Herb. N. Takaki, No. 3994, Sept. 1947); Prov. Mikawa, Miwa-mura (Coll. N. Takaki in Herb. N. Takaki, No. 4622, May 1948); Prov. Mikawa, Mt. Hongûsan (Coll. N. Takaki, in Herb. N. Takaki No. 4836, July 1948); Prov. Musashi, Mt. Kariyose-yama (Coll. H. Takahashi in Herb. N. Takaki No. 2070, June 1938); Prov. Kai, Syôsenkyô (Coll. N. Takaki in Herb. N. Takaki No. 1085, Nov. 1942).

クマノゴケ

本種についても前記クマノチヨウジゴケと同様に野口氏が同文献に詳しく解說し圖版を添えて居られる。それに紹介してある產地は最初の發見地たる朝鮮の他に本邦では屋久島，大隅，安藝，伊豫，紀伊，伊勢，下野等であるが，筆者は昨年來，三河の山地帶を廣く調査してみたが鬱閉した森林内の溪流に沿つた所であれば大抵の所には見出される位，本地方には廣く分布していることを知つた。三河地方では 12 月頃から子囊が出來はじめ 3 月頃には完全に成熟する。筆者はこの他に更に上記の如き產地の標品を所有している。　(續く)

本研究及び引き續き發表豫定のものは主として櫻井久一博士の御懇篤なる御指導によるもので深甚の謝意を表する次第ある。尙，東京文理大，伊藤洋助教授をはじめ，東大理學部植物學教室，東京科學博物館の方々よりは圖書，標品等について種々の御便宜を圖つて戴き，又，岡崎高等師範松原益太校長よりは直接間接に常に御指導御援助を賜つて居る。こゝに併せて厚く御禮を申上げる次第である。

○時々見掛けるカタヒバの一種　(前川文夫)

二三年前から時々花屋で賣つていることもあるし，又岩組の間の植込みに使つてあることもある一種のカタヒバがある。よくみるとカタヒバよりは疎に分枝する上に莖の上部には細かい散毛がある。又地上に接する莖の部分は往々蔓出し狀に伸びる。葉の質は *Selaginella sinensis* Spring などに似ていて，乾くと上下の兩緣が裏へ捲き込むので標本ではちらちらした感じがする。私は以前に浙江省の山の中を歩いた時に，白堊紀の麗水層の岩壁が露出したところにはよくこれとそつくりなカタヒバの一種が茂つていたことを思い出す。ツルカタヒバ *Selaginella biformis* Al. Braun というのがそれで揚子江南岸以南からマレイ地方に迄分布するが，沖繩にもあるらしい。東京で冬も露地で平氣なのは案外であつた。